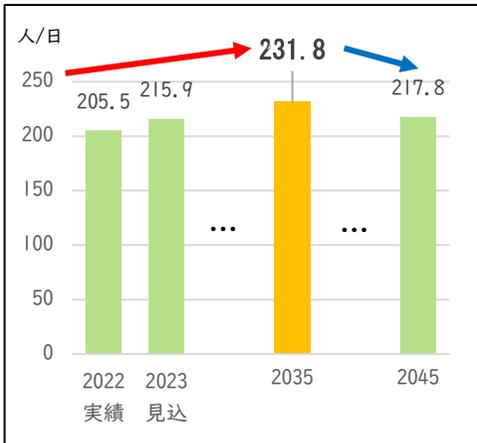
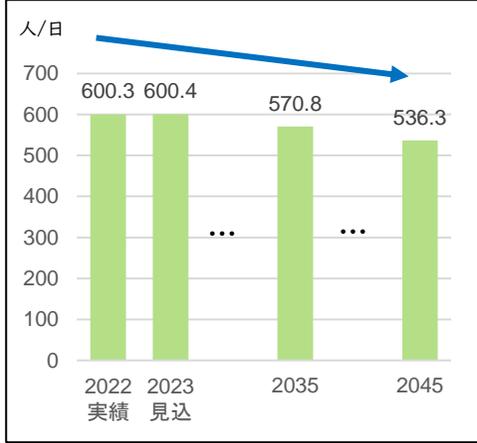


取り巻く環境と当院の現状

■ 当院の将来入院患者推計(成行き予測)



■ 当院の将来外来患者推計



人口減少及び高齢化の進展に伴い、**入院需要は2035年にかけて増加**
外来需要は今後減少の見込み

役割・機能の最適化と連携の強化

■ 地域医療構想等を踏まえた当院の果たすべき役割・機能

救急医療の充実「断らない救急」 Point !

- ・ 人員の確保 (救急専門医や看護師、救急救命士)、施設・設備の整備、それによる運営体制を見直し、**救急車受入件数及び救急車応需率を向上**

専門医療の充実

- ・ がん医療の充実 (手術支援ロボットの導入・放射線治療医常勤化)
- ・ 手術の充実 (手術件数増加に対応できる人員体制の強化) など

石川県医療計画に準拠した政策医療の継続

- ・ 精神医療：一般病床で精神科身体合併症患者を受入れ
- ・ 結核医療：結核病床6床を維持
- ・ 感染症医療：感染症病床4床
- ・ 周産期医療：普通分娩・異常分娩への対応
 周産期母子医療センターへつなぐ二次的機能
- ・ 小児医療：専門外来、救急外来、小児入院医療体制の強化

災害拠点病院としての機能強化

- ・ 非常事態に備えた災害拠点病院の役割を果たす

研究開発及び教育・研修機能の充実

- ・ 医療分野における先端技術の研究・開発や教育・研修できる環境・施設整備検討

■ 医療圏内施設との機能分化・連携強化

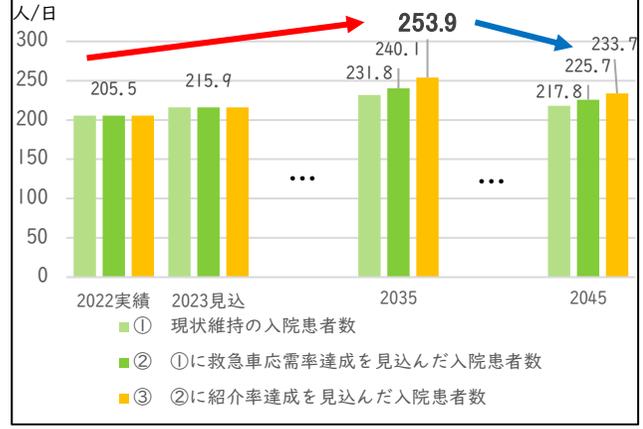
紹介率・逆紹介率の向上 Point !

- ・ HOSPITAL PROJECT 2023 (PFM推進プロジェクト・広報強化プロジェクト・連携病院拡大プロジェクト)
- ・ 営業・広報を専門業務とする職員の確保
- ・ 地域のかかりつけ医・小松市医師会との定期的な合同カンファレンスなどの取組みにより、**紹介率・逆紹介率を向上!**

外来診療の適正化

- ・ 外来診療を見直し、紹介患者の専門医療及び入院医療を中心に医療資源を効果的に投入

■ 一般病床 (高度急性期・急性期病床) の患者需要



■ 病床数・病床機能

機能区分	2023	2024	2025	2026	2027
高度急性期	15 (休床3)	15 (休床3)	15 (休床3)	15 (3再開)	15
急性期	285 (休床22)	285 (休床22)	285 (休床22)	285 (休床22)	※285 (休床22)
一般病床計	300 (休床25)	300 (休床25)	300 (休床25)	300 (休床22)	300 (休床22)
精神病床	26 (休床)				
結核病床	10 (休床4)				
感染症病床	4	4	4	4	4
全病床計	340 (休床55)	340 (休床55)	340 (休床55)	340 (休床52)	340 (休床52)

※2027年度に緩和ケア病棟再開を目指す

救急医療の充実・紹介率を達成すると
 2035年度の入院患者数は **253.9人/日** の見込み
▶ **計画期間中(2027年度まで)の病床数を維持**

医師・看護師の確保と働き方改革

■ 医師・看護師等の確保

医師の確保

- 大学病院等との連携強化

その他医療従事者の確保

- コメディカル、救急救命士等の確保・育成
- 特に公立小松大学との情報交換を実施

看護師の確保

- 随時採用など迅速な採用手法の活用
- 看護師の負担軽減のため、看護補助者の確保
- 「小松市看護師等修学資金貸与制度」を継続

■ 働き方改革への対応

タスク・シフト/シェアの推進

- 医師と他職種と協力し合える環境づくり

AI・ICTの推進

- ペーパーレス化、搬送用ロボットなどの導入

看護師の業務負担軽減

- セル看護提供方式[®]を継続し、生産性向上

院内保育・病児保育の維持

- 医療従事者に安心して働いていただくため、院内保育・病児保育の運営を維持

人事評価制度の構築

- 人事評価や能力・実績評価などについて、民間のノウハウを活用した評価制度の構築

施設・設備の最適化

施設・設備の適正管理と整備費の抑制

- 今後求められる入院機能・外来機能・診療機能

医療機関との地域連携	救急医療	がん診療の充実
手術の充実	入院・外来機能	研究・開発及び教育研修機能の充実
脳卒中医療の高度化 内視鏡検査・治療の充実	政策医療への対応	災害拠点病院としての機能強化

- 本館は約35年が経過（法定耐用年数は39年）
- 標榜科目の新設や増改築を行い、部門間の連携を考慮した効率的なゾーニングや動線について不都合が発生
- 南加賀医療圏における中核病院として、今後求められる入院機能・外来機能・診療機能を果たすことが困難



本館建替の必要性（2024年度 新病院基本構想策定に着手！）

デジタル化への対応

- 搬送用ロボットの導入、マイナンバーカードによる電子処方箋への対応
- 電子カルテ作業と同時に生成AIを使用できる作業環境の構築などを検討

新興感染症の感染拡大時に備えた平時からの取組

院内感染対策の徹底

- 感染制御室を中心に、組織的な院内感染防止対策に取り組む

新興感染症等の感染拡大時の取組み

- 感染管理認定看護師など専門人材の確保・育成
- 個人防護具の備蓄量は、2ヶ月分以上備蓄

経営の効率化等

収支確保に係る数値目標

指標	2022年度 (実績)	2023年度 (見込み)	2027年度 (目標)
病床利用率(稼働病床:285床)	72.1%	76.0%	85.5%
延べ入院患者数	75,003人	79,016人	88,983人
延べ外来患者数	145,876人	145,897人	142,373人
入院患者単価	62,050円	69,740円	75,000円
外来患者単価	19,415円	21,183円	22,540円

経費削減・経営の安定性に係る数値目標

指標	2022年度 (実績)	2023年度 (見込み)	2027年度 (目標)
給与費比率	55.3%	50.7%	47.7%
材料費比率	34.4%	32.2%	34.0%
薬品費比率(再掲)	22.6%	21.2%	23.5%
診療材料費比率(再掲)	10.8%	10.0%	9.6%
経費比率	19.3%	17.9%	15.8%

経営形態の見直し

- 一部適用を継続

※今後の医療政策の動向や、医療環境の変化を見据え、経営形態の見直しなども視野に入れる